

第83回 日本産業衛生学会自由集会
セカンドオピニオン医としての産業医

主旨説明
産業医こそが
セカンドオピニオン医！

齊尾 武郎

フジ虎ノ門健康増進センター

saio@ppp.bekkoame.ne.jp

2010年5月28日(金) 福井市 フェニックスプラザ

産業医の問題行動

- 労働法違反に関する内部告発
 - 社長・専務に直訴
 - 労働基準監督署に告発
- 社内政治に奔走
 - 常務になれば.....??
- 産業衛生スタッフいじめ
 - 産業医がないがしろにされたらと大騒ぎ
 - 「衛生管理者資格のないものは意見を言うな！」
 - 労働衛生スタッフの追い出し工作
- 「法的には保健師以外は保健指導はできないんだから、産業看護師とは仕事しない」と宣言

産業医の困惑

- 法で雇用が強制される存在
 - － 会社の中で孤立・ひとり職場問題
 - － 「産業医は税金だ」
- 気がつけば臨床のできない医師
 - － 臨床経験のない医師
 - － 社員を詰問する医師（産業医による取り調べ）
- 厚労省の下請け機関としての産業医
 - － 法律を盾にとつて、会社と対立
 - － 法律しか頼るものがない

産業医である前に医師である

- 会社にいる身近な医師
 - － 自分や家族の病気の相談をしたい
- お金をかけずに社員の健康を守るには
 - － 社風を変えるには10年がかり
- 労働衛生上の課題のトリアージを！
 - － ちょっとコレステロールが高いことがそんなに問題か？（健診屋と化した産業医）
 - － つまらぬことで紹介される側の医師も迷惑

セカンドオピニオン医としての産業医

- 優れた臨床医こそが、真の産業医の要件
 - － とくに一般内科医としての広範な臨床経験・見識が必要
 - － メンタルヘルス業務が半分を占めるので、精神科の勉強をしてほしい
 - だが、精神科ずるずるべったりになってはダメ
 - 病気の原因を患者本人のみに帰してはならぬ
 - 環境だけに帰してもならぬ
 - － 寝技・引き技・じっと我慢

第83回 日本産業衛生学会自由集会
セカンドオピニオン医としての産業医

壁のない医師のみた 産業精神保健の不思議

齊尾 武郎

フジ虎ノ門健康増進センター
saio@ppp.bekkoame.ne.jp

2010年5月28日(金) 福井市 フェニックスプラザ

おお流行りの 職場のメンタルヘルス

- 産業衛生畑の人たちは、精神医療を批判しない
 - 精神科医たちとの対立を恐れる
 - 精神科の勉強を怠る産業医は要らない
- 合議制で物事を決めれば、うまくいくのか？
- リワークプログラムの隆盛
 - 効果があるというエビデンスはまだない
 - 復職までの時間稼ぎか
 - 本当に優れたプログラムは稀
 - グローバリゼーションで、今後はsupported employmentへ

産業医の行う 精神科セカンドオピニオン(2)

- 診断は操作的診断基準でよい
 - DSMやICDに対する批判はあるが、デタラメな直感診断よりマシ
- 腕のいい精神科医を見つける努力
 - 病気がこじれるのは、精神科医の腕が悪いからかもしれぬ
 - 総合病院勤務の精神科医は有力候補
- 治せない精神科医より、勉強する内科医

困った精神科医群像

臨床場面

- 話を聞くだけ
 - 「ふんふんふん……それで?……ふんふんふん。じゃあ、この薬飲んで。」
- 優しく素人でもできるようなアドバイス
- メリハリもなく、延々と効かない量の薬を多種類併用する
- 診断を本人に伝えようとしな
 - 病気の見通し、治療方針を明確にしない
- 患者が副作用を訴えたら、無条件に薬を変える
 - コロコロ薬を変えている間に病気がこじれる

産業医こそが主治医

- これまでの産業医教育は「会社の主治医」を強調し過ぎた
 - 会社にとって都合のいい医師
- 個々の社員がいちばん信頼する医師としての産業医
 - 精神科主治医にどうしても言えなかった悩みを産業医に告白する社員たち
 - 主治医は変わっても、産業医が変わらないことの強み
 - 社員の人生を引き受ける覚悟を
- 御用聞き・何でも屋であればいい
 - プライマリケアの担い手としての産業医
 - 見識ある市民としての産業医（会社とも社員とも距離を置ける存在）